

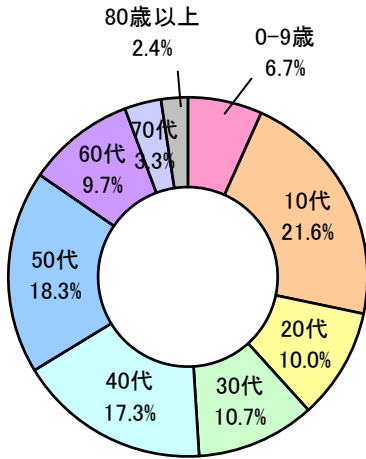
特別展「縄文—1万年の美の鼓動」

アンケート集計結果

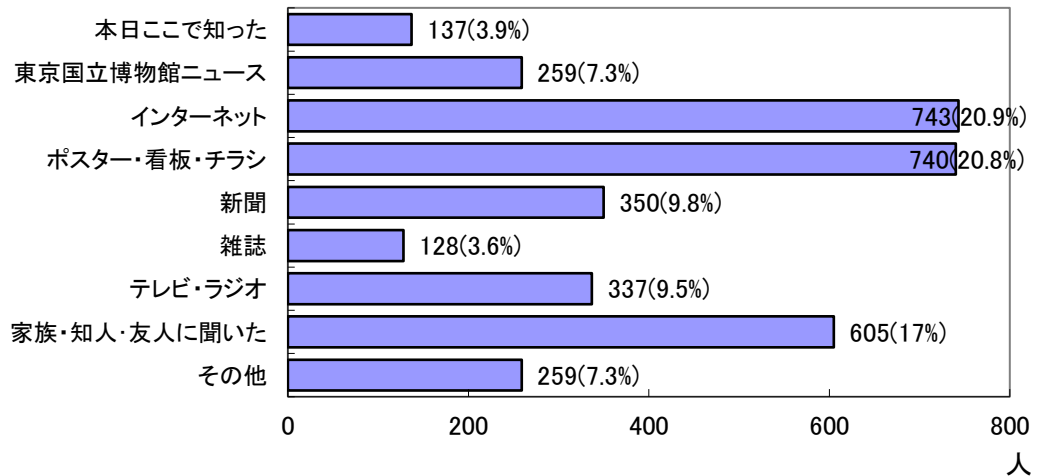
開催期間：平成30年7月3日（火）～平成30年9月2日（日）（55日間）

回答者数：2,239人（総入館者数：354,259人 アンケート回収率：0.63%）

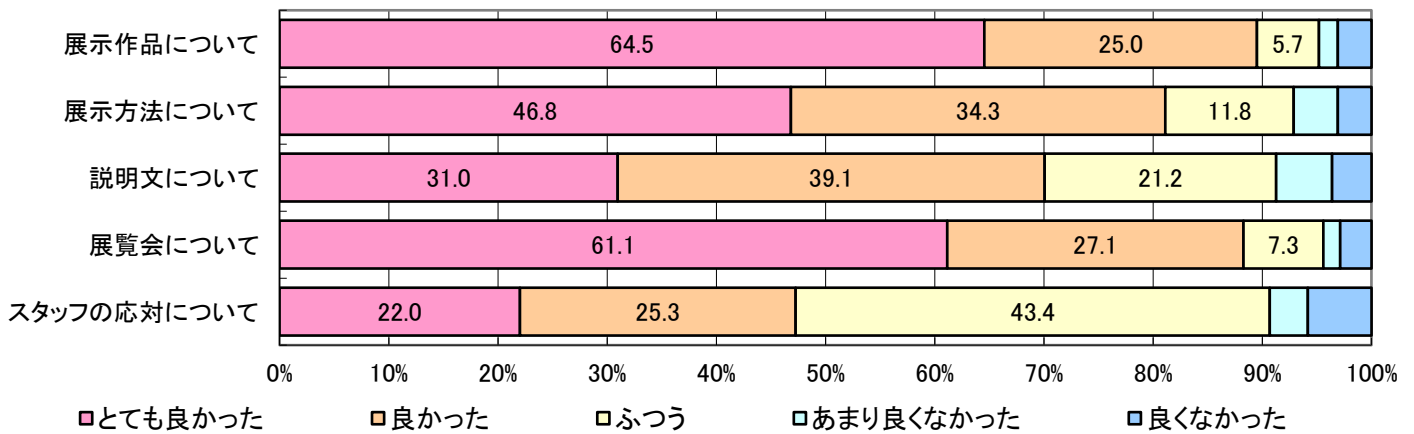
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ 作品を前後左右から見られて非常に満足だった。
- ・ 一般的な土器だけでなく、大きさ・形状・文様など様々なパターンのある土器がこれだけ見られてよかった。
- ・ 縄文に関する作品が全国から集まっていて見応えがあった。
- ・ 豊かで平和な暮らしが土器の美しさに反映されていることがよくわかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	1.8	3.1
展示方法	4.0	3.1
説明文	5.1	3.6
展覧会	1.5	2.9
スタッフの対応	3.5	5.8

(%)

縄文時代が始まったとされる約1万3千年前。狩猟や漁撈（ぎょうろう）、採集を行っていた縄文時代の人びとが、日々の暮らしのなかで工夫を重ねて作り出したさまざまな道具は、力強さと神秘的な魅力にあふれています。「縄文の美」をテーマに、縄文時代草創期から晩期まで、日本列島の多様な地域で生まれた優品を一堂に集め、その形に込められた人びとの技や思いに迫った本展には35万人を超える方々にご覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して88%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。その一方で「土器の内側をもっと見たかった」、「国宝が全て揃っていない期間が長い」、「作品の重量が知りたかった」などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。